

編集室から

5月の下旬になっても、肌寒い日があります。今年はなぜか、気温が低めであるような感じがしているのですが、なぜでしょうか。

気温が低めですと過ごし易く身体は楽なのですが、農作物のできが気になります。地球温暖化は、むしろ気候激動化であると申し上げつづけていますが、低温が続いたり、一気に高温になったり変動が激しくなることも、作物の生育に影響します。そして、やがてそれは農作物の価格高騰や、食糧問題となって我々の暮らしに直結していきます。

目先の利便性・暮らしの安定を求め、大陸を渡って先住動物を狩りつくし、貨幣経済・科学技術を発明して、農業革命・産業革命を起こして世界に広め、常に環境に影響を与え続けた結果、地球規模にそれらが蔓延して自らの長期的な生存を危うくしているのが、われわれホモ・サピエンスのビック・ストーリーであると喝破したのが、本年2月号から3回にわたって「つぶやき」欄にてご紹介差し上げた「サピエンス全史」でした。

「発展とは何か」といういささか哲学的なテーマを自問自答しつつ、地域の経済・産業・社会の発展の一助となるさまざまなプロジェクトのお手伝いをさせていただいている身としては、この自問自答を一層深く掘り下げる機会を同書からもらったと感じています。

国が真から開かれていく中、価値観の急速な多様化を始め、さまざまな技術の急激な進展など、あらゆる点で一気に世界が変わろうとしている今日、少しでも遠くを見つめて、歩みをすすめて行かねばならないと、改めて感じているこのごろです。(は)



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆
していただいている川島さん
が「能登の夜市」の姉妹店を
開店されました。

上京された際、ご利用になっ
てみてください。

もちろん、川島さんご自身も
お店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00~24:00

金曜17:00~28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3

ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2017/06

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2017/06

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

水意月



夢の国にて
by hama

寄稿 『体と心と社会の生活習慣病』その七

麻田総合病院・糖尿病センター 井垣 俊郎

まず、炭水化物から話を始めます。炭水化物といえ
ば、肥満や糖尿病の原因として近頃は目の敵にされ
ています。はたして、本当でしょうか？

日本人が食べる炭水化物の量は、下図のように
年々減り続けています。これは肥満や糖尿病の増加
と逆行しています。そして、もっとさかのぼれば、江
戸時代の日本では、ほとんどの人が炭水化物である
玄米や粟などの雑穀に味噌をつける程度の食事しか
していませんでした。もし炭水化物が『悪』であるな
ら、江戸時代は糖尿病だらけだったはずですよ。これ
も事実とは合いません。

ではなぜ、江戸時代に糖尿病患者がいなかったの
でしょう。理由は簡単です。まず消費エネルギーにギ
リギリ見合う程度の食事量しか摂れなかったこと、
次に雑穀のおかげで血糖はゆるやかにしか上昇しな
かったこと、そして血糖を急速に上げる甘い物が無
かったこと、これが主な原因です。現代では、これら
全てが損なわれる方向に進んでいます。炭水化物は、
それ自体が『悪』であるとは言えません。ただ、好き
なものを好きなだけ食べていたら、問題になる事も
間違いなさそうです。そこを正しく理解するために、
炭水化物をもう少し掘り下げてみます。

炭水化物とは、文字通り「炭素(C)」と「水(H₂O)」
で出来ています。そして基本単位になるのは炭素と
水が6個ずつのC₆H₁₂O₆で、多くは環状の構造をし
ています。ただ同じC₆H₁₂O₆でも、微妙な構造の違い
によって六十種類以上が存在し、ヒトにとってエネ
ルギー源になるもの、利用されず体内を素通りして
排泄されるもの、そして有害な作用を持つものもあ
ります。そして、こうした多様なC₆H₁₂O₆が様々な組

み合わせで延々と数珠つなぎに
なっていくのですが、その結合の
仕方によって性質が変わってき
ます。こうした基本単位の種類・結
合数・結合様式によって、炭水化物
はザックリと三つに分類できま
す。単純糖質と複合糖質と食物繊
維です。

単純糖質は、基本単位である
C₆H₁₂O₆が1個または2個で出
来ています。1個の代表がブドウ
糖と果糖で、2個はほとんどがシヨ糖(砂糖の主成分で
ブドウ糖1個と果糖1個が結合)です。口に入れると
「甘い」のが特徴です。炭水化物といわれて一般的に思
い浮かぶ米飯やパンやうどんなどは、複合糖質と呼ば
れます。基本単位は主にブドウ糖で、数十個から数万個
が比較的切られやすい結合で数珠つなぎになってい
て、食べる「もちもち」しています。そして、C₆H₁₂O₆
の中で特定の種類が特別に切れにくく結合しているの
が、野菜などに含まれる食物繊維です。水溶性と不溶性
があつて、水溶性は「ネバネバ」で不溶性は「モシヤモ
シヤ」とした食感が代表的です。このように炭水化物は
多様なうえ性質が全く違うので、個々に分けて考えな
ければいけません。でも各成分だけを抽出して食べる
こともありませんから、食事として摂った時の全体像
も忘れないようにする必要があります。



【プロフィール】

(いがき としお)金沢大学北
浜寮で、濱さんの2年後輩で
した。濱さんは、とつても怖
かった。卒業後は金沢を離
れ、現在は温暖な讃岐高松で
又ク又クしています。

濱のつぶやき 『善意の行方』

ますます世知辛く近視眼的になってきているのではない
かと感じられてしまう昨今。善意は、ますます窮地に立
たされているのかも知れない。

善意を装った悪意、あるいは善意を利用した行為に
よって身近なトラブルから犯罪まで起きているから、な
おさらである。

ある行為が善意に満ちたものであるのか、悪意が仕込
まれているのか。瞬時に見極めることは難しい。悪意が
潜んでいる場合、疑うことを知らなければ容易に騙され
る。オレオレなどの特殊詐欺が一向に減らないのは、疑
うことを知らない世代・事情につけこんだ卑劣な犯罪だ
からだろう。

一方、すべてを疑ってかかると、真の善意も受け取れ
なくなる。その結果、世知辛さが伝播し加速する。

善意を装った悪意に屈すると、相手のせいにする自己
正当化しか、できなくなる。そして、周りが信じられな
くなる。結果、悪意の思う壺となる世界の拡大に、意図
せず加担させられる。心が弱いと、それはまるで伝染病
であるかのように流行っていく。怖いのは、心の病は容
易には気づかぬことだ。

業務上、さまざまな事業に対するアドバイスを求めら

れる。善意からの進言は時に、厳しい言葉としてお伝えし
なければならぬこともある。相手の耳に痛いことを申
し上げねばならない場面では、相応の勇気が要る。勇気を
出してお伝えしても、その想いが届かないとき、虚しさ
に襲われる。なぜ、今を守りたいが故に、将来の芽を摘むの
か、と。

こんな時代、善意を信じる・受け入れるには勇気が要
る。たとえ、裏切られたとしても自分の眼力の無さを自覚
し、それでも姿勢を崩さず歩みを進められる強さが要る。
悪意への警戒心が高じると、隠されてもいない悪意を
想起してしまう。そこから起こる善意への不信に対して、
それでもなお、善意を貫き通せるか。それは、自分自身の
在り方の問題だ。

ただ、ある善意が常に善いものであるとも限らない。こ
ちらの善意が単なる思い込み・押し付けだと、過ちの元と
なるし、秘して伝えず自らの体験から学び取って頂く方
が、深く入るものでもある。

難しい時代になった。

善意を疑い、素直には受け取れないのが普通の時代。

これで果たして、人間は幸せになろうとしているのだ
ろうか。

本年4月1日、名古屋市港区にオープンしたテーマパークに関するネガティブな反応がネットを賑わせている。レゴブロックの世界観を表現するテーマパーク「レゴランド・ジャパン」のことである。

入場料や園内飲食料が高いとか、平日はガラガラという書き込みがSNSで拡散されている。来園者数は非公表のため実際の集客状況は不明であるが、同施設の来園者をターゲットにした隣接する商業施設には、早くも撤退の動きが一部のテナントで生じているようだ。

当該テーマパークはオープンから2ヶ月が経過しただけであり、その成否を評価するにはまだ時期尚早であろう。また、2~12歳までの子供とその家族をターゲットとし、初年度の年間来園者数の目標は200万人であることから、よく比較される東京と大阪のテーマパークとは異なる見方が必要となる。

ところで、新しい施設を計画する際には、どのくらいの利用者が見込まれ、収支はどうかをシミュレーションすることが多い。民間企業が所有・運営し、利用者からの入園料等で経営を成り立たせているような施設であれば、そのような計算はなおさら重要となる。

需要予測には様々な手法があるが、利用者の行動原理をモデル化し、そこに様々な値を入力して求めるような手法が一般的である。行動原理は、同種の施設の利用率等で簡便に推計するものから、当該施設の魅力に比例、利用にかかる総費用に反比例すると仮定し他の要素も含めた複雑な関数を用いて推計するものにと概ね分かれる。インプットするデータは、当該施設と競合施設の年齢別魅力度を数値化したもの、利用料金、当該施設と競合施設への距離別年齢別人口と移動にかかる費用・時間等が基本となる。

ところが需要予測はなかなか“当たらない”。需要予測を行うことが無駄だということではなく、如何に再現性の高い精緻なモデルを構築したとしても、限界があるということを示し上げたい。その前提のもと、当該施設に適切な手法でシミュレーションを行い、その結果や過程から事業の妥当性評価や計画の変更等を行うことが重要である。

この分野には人工知能（AI）を用いることが今後主流になるだろう。既に様々なマーケティングの現場において、AIを用いたソリューションの開発や導入が進められつつある。果たして、完成したAIによる需要予測システムは、新しく計画されているテーマパーク等に対してどのような解を出すのだろうか。AIは人間の扱える範囲を大幅に超えた多種・大量のデータを分類したり、そこから人間の経験や感覚では描けないようなパターンや因果関係を導き出すことも可能である。すなわち、未来予測はAIの得意分野となりうる。少なくとも近い将来、コンサルタントが需要予測に頭を悩ますことは激減すると、人間である私は未来予測してみたが、果たしてどうだろうか。

昨今は5月が運動会シーズンなんですね。先日小学校1年生になったばかりの娘が通う小学校の運動会でした。当日は快晴で運動会日和(?)と思ったのですが、気温は30度を超え太陽光を遮るものがないグラウンドでひたすら紫外線にさらされながらの半日でした。廃校になった学校のグラウンドの多くが太陽光発電のメガソーラーに利用されている理由を身を持って知ることができました。参観に来ていたおじいちゃん、おばあちゃんの多くは孫たちの活躍を見ることもなく室内の休憩所で世間話に花を咲かせているような状況を見て、『ここは病院の待合室?』と皮肉る人たちも(苦笑)。

私が小学生時代の運動会と何が違うのか?

開催時期

私にとっては運動会と言えば、秋の風物詩であり、お弁当は栗ごはんのオニギリというのが定番でした。10月10日が体育の日ということもあってこの前後で、どの学校でも運動会が行われていました。

お昼ごはんの風景

気温の関係もあって、食中毒のリスクがあるのかもしれませんがなんと「自宅に帰ってお昼ご飯を食べてきてもいい」とのことでした。レジャーシートを敷いて、みんなで重箱に詰めたお弁当をつつくというご家庭もありましたが1/3くらいは自宅でご飯を食べに帰っていたような気がします。

親が参加する競技

かつては、父母と子供による競技やお父さんが徒競走のコーナーですっ転ぶというのがお約束の運動会ですが、娘の通う小学校では親の出番は全くありません。

・晩婚化による親世代の高年齢化による怪我のリスク増

・離婚率の上昇による片親世帯の増加により参加者の激減

等が理由のようです。かくゆう私も巷の言葉を借りればアラフィフ間近ということで、すこしホッとしたのが本音です。

親の行動

一番びっくりしたのがこれです。私が子供時代はよっぽどの事がない限り親が子供達が座る席に来ることはなかったですし子供もお昼ご飯以外では親が座っているところに行くことはありませんでした。しかし、今の運動会(この学校に限ったことではないのかも)は、親が子供の席に入り浸る光景を多く見かけました。何をしているかと思えば「ちゃんちゃんと水分補給した?」、「次の次が1年生の競技だから皆についていくのよ」等々。そんなの先生がちゃんと見てるって!!!!これもまた少子化、晩婚化の影響なのでしょう。うちの娘なんて、競技前に「がんばれー」と声をかけるのさえも嫌がってましたが。。。

子離れができない親世代を象徴した一幕でした。

しかし、変わらないものもたくさんあって徒競走では子供達はもちろん親までもがみんな結果に一喜一憂してますし紅組、白組に分かれての玉入れ、大玉ころがしといった定番は変わらずズルやハプニングもあって笑いに包まれますしリレーでは子供、親関係なくいくつになっても興奮してしまいます。子供達もみんな笑顔で声を張り上げて応援している姿は微笑ましいものでした。

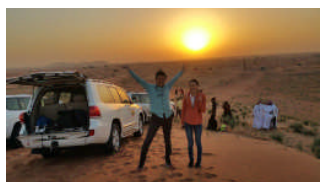
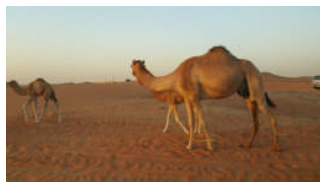
でも運動会はまだ涼しい4月もしくは10月あたりでお願いしたいところです。

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』ドバイへの旅 2016.12.23~28
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

砂漠にはどこからでも入ることが出来るわけではなく、ゲートがあるところから入っていく。起伏は相当にある。本格的な砂漠走行の前にタイヤの空気を少し抜いた。タイヤの設置面積を増やし、しっかりと砂地を捉えるためであろう。登ったり降ったり、右に左に傾く。一瞬ひっくり返るのではと、皆の歓声やら悲鳴、驚きの声上がる。ドライバーの運転テクが凄いけどそしてこの粒子の細かいさらさらな砂に車は大丈夫なのか、心配してしまう。このハードな状況に应付しているのがトヨタランドクルーザーだ。他の車は見当たらない。この車のおかげで、砂漠でも現代的に暮らすことができることになっていると思う。見渡すとランドクルーザーが連なって走っていく、その内に車を止め、皆は車外へ、思い思いに過ごしながら砂漠の地平線に夕陽が沈む様を楽しむという趣向だ。

その後は、夜の夕食会場に向かう。砂漠の遊牧民の村を再現したキャンプ地がそこにはあった。砂漠の上に絨毯を敷き座卓と座布団に当たるクッションが用意されている。砂漠の中のオアシス、まさにアラビアンナイトの夜が始まろうとしている。水パイプ、ヘナツアー、らくだ乗りのお楽しみが用意され、前菜も用意された。マナキーシュと言うレバノン風ピザ、ファラフェルと呼ぶアラブ風コロッケ、チキンのサンドイッチ。お腹が空いていたこともあり、二皿食べてしまった。その先の料理が分からなかったのも、食いそびれてはどの不安もあった。これから本番、ベリーダンスが演じられた。これがヤバイ、見るだけでいいと思いきや、参加型で最前列の男どもが腰振りを強要される。身の危険を察した小生の前に座るアジア系の男は立ち去り、遠目で見ることになっていた。小生は覚悟を決めたが、流石に服をめくり腹を出してくねくねと踊ることは勘弁して欲しいと案じている内に、出演機会を失った。ヤレヤレである。食事時間に突入、アラブ料理が並び、皿に取っていく。最後にはドーナツまで用意されていた。砂漠のど真ん中で、よくぞここまで用意できるものだ。お酒も高めではあるが用意されている。

食事を終えた頃、次なるショーが始まった。ダウ船



クルーズでも見たスーフィーダンスだ。今回は目と鼻の先だ、迫力が違う。よくも回れる。回転するスカートはその内に光を放し、クライマックスを迎える。その後が今回は違う。両端に火を着けたロープを回転させ始めた。最前列の小生は熱さにのけ反った。迫真のパフォーマンスに皆、拍手喝采。

砂漠の星空を見上げつつ帰路に向かう。ホテルに送り届けてくれるドライバーは行きと異なり、長身のルワンダ人だ。ランドクルーザーって、砂漠だけじゃなくて、一般道でもこんなにキビキビと高速、高加速で走るんだと思わせてくれたドライブテクに感心した。最高の現地ツアーだった。

ホテルに着くとすぐそばに堀があることに気づいた。ここドバイには川は無い。そこに掛かる橋のエンタテインメントが凄いのだ。橋桁から滝のように水が落ち、紫色にライトアップしている。堀沿いは公園が整備され、賑わっていた。年中暑いドバイにあって、外での楽しみは夜になりがちだから、公園の夜の演出に力が入ることがよくわかる。緑は植えて、そのまま育つ環境に無いから、灌水装置の付いたプラターボックスになっている。都市にある緑には全てこの人工的水やり装置が設備されている。水は川や地下に求めることが殆どできないから、海水を淡水化している。

ガイドの「ここには砂と油しかなかった」という言葉が頭から離れない。今ではドバイ経済に占めるオイルダラーの割合は5%に過ぎない。限りある資源を一時稼ぎ、その貯金で永久に続く国を成り立たせることはできない。そこに世界のビジネス、観光客を呼び込むことをリードしたシャイクラシッド王がいる。1978年にいづれ枯渇する石油産業から脱却と、これまでに貯めたオイルマネーを使って世界一、世界唯一を創り出す。欧州への輸送拠点に適すドバイ港、ここに経済特区を設け税金をタダにする。地平の果てまで続きそうな広大な港に荷物をどれだけ置いてもタダ。その結果、世界中の企業が進出し自社製品をストックする。真水は殆ど無いから海水を脱塩し淡水化500ml30円で販売できていて、海外にも輸出しているんだから、大したものだ。しかも油よりも高くね。(つづく)

